

原生生物プラストシスチスの生物学と分子系統解析

生物学コース 吉川 尚男

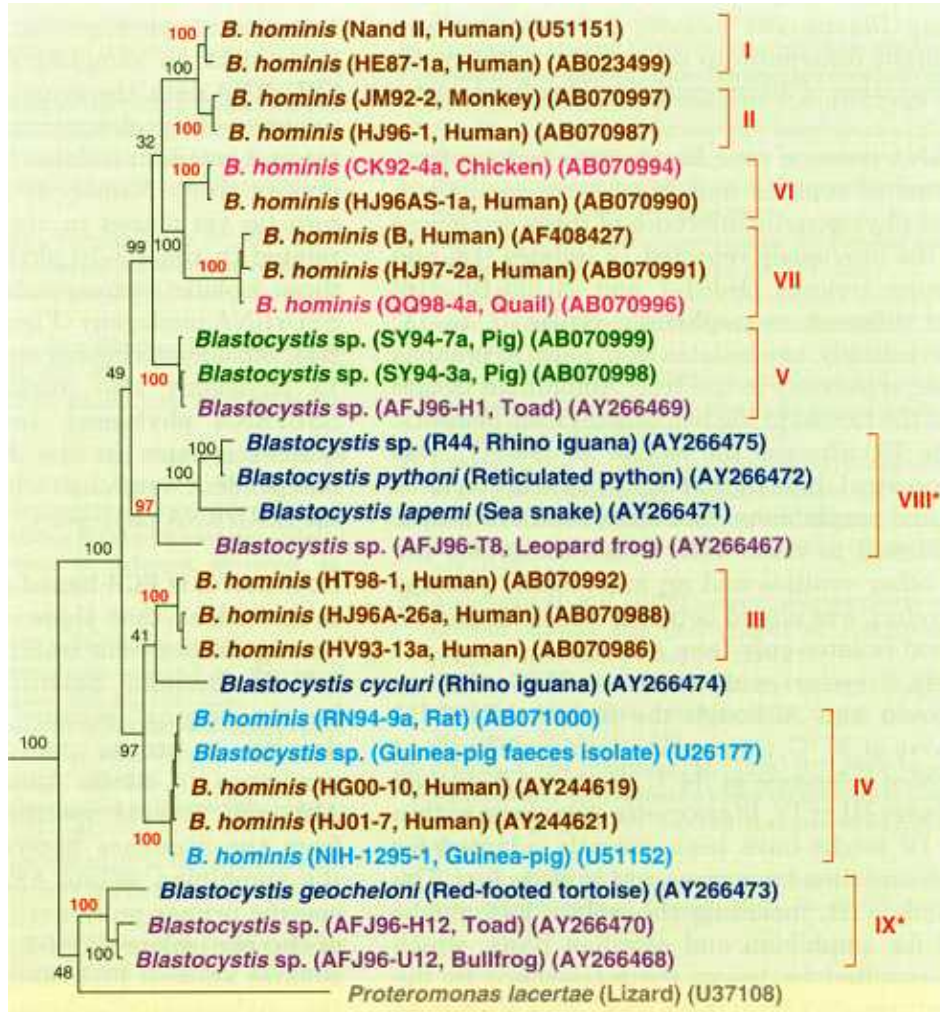


Fig. 1. Phylogenetic tree inferred with 18S rRNA gene sequences of *Blastocystis* isolates with *Proteromonas lacertae*.

様々な動物種から分離されたプラストシスチス分離株の 18S-rRNA 遺伝子の塩基配列による分子系統樹

原生生物プラストシスチスは、1912年にヒトから発見された嫌気性の微生物である。嫌気性にもかかわらず、ミトコンドリア様の細胞小器官をもち、ヒト以外の様々な動物、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、まれに昆虫類から見出されている。そのため、ヒトとヒト以外の哺乳類や鳥類から見出されるプラストシスチスが同じなのか、それとも異なるのか、について議論されている。我々の研究室では、様々な動物から本微生物を分離し、他の分離株との分子系統的な位置関係を18S-rRNA 遺伝子の塩基配列から調べている。また、家畜動物からヒトと近縁な株が分離されていることから、ヒトと家畜動物の間で感染伝播が生じるのかについても調べている。

キーワード：分類、分子系統学、遺伝的多様性